

# 前の川ダム



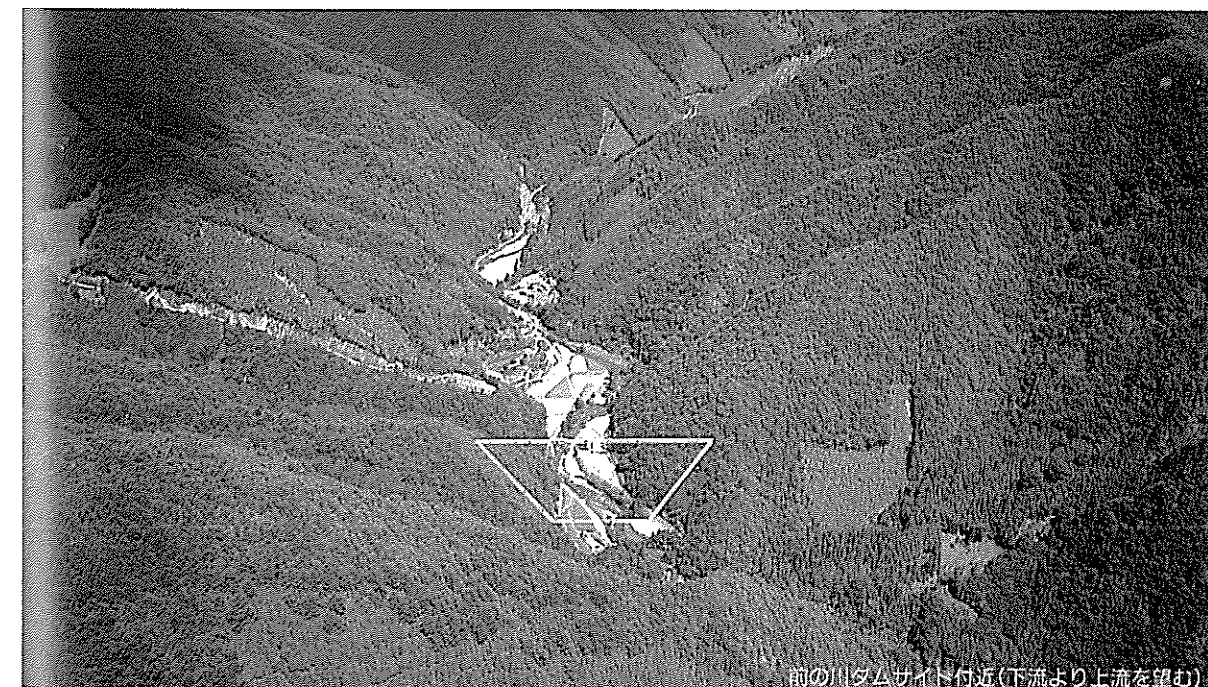
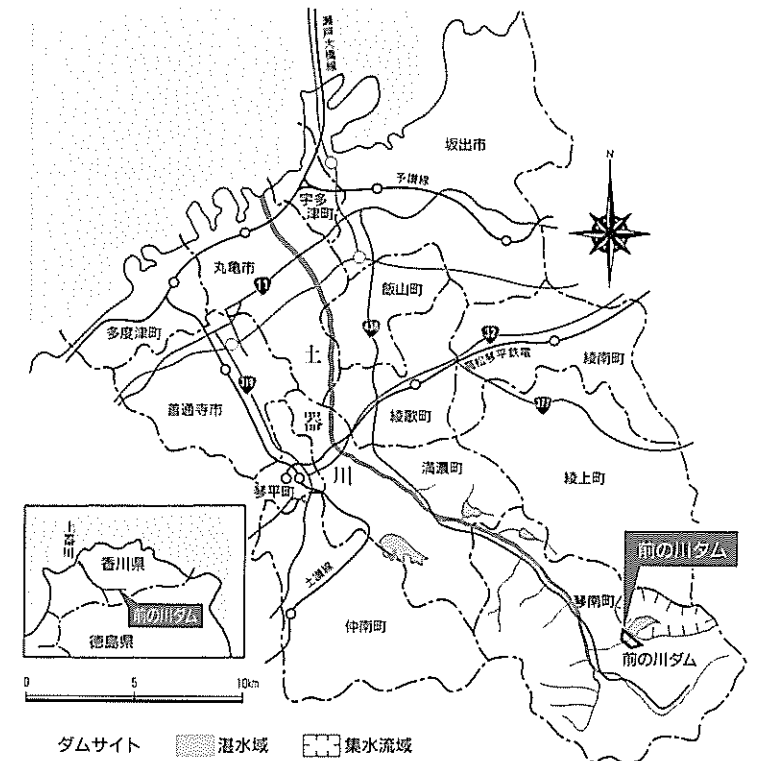
## ◆前の川ダム事業がはじまっています。

土器川の工事実施基本計画(平成2年3月)改定により、土器川沿川の洪水被害の軽減及び水資源開発等を目的とした多目的ダムとして、前の川ダムをはじめ、上流ダム群の建設を行うことになりました。前の川ダムにおいては、平成3年度より実施計画調査を実施しています。

土器川水系工事実施基本計画では、基準地点(祓川橋)での基本高水のピーク流量を1,700 $\text{m}^3/\text{s}$ 、計画高水流量を1,350 $\text{m}^3/\text{s}$ とし、350 $\text{m}^3/\text{s}$ を土器川上流ダム群で調節することとしています。

また、土器川は丸亀市、坂出市、善通寺市、満濃町等の耕地に対する水源として広く利用されており、これらの地域は元来が寡雨地帯で、多くの溜池に象徴されるように古くからかんがい用水の確保に努力してきた所です。旱魃時には深刻な水不足に見舞われているため、不特定補給を行い、流水の正常な機能の維持をはかる必要があります。

丸亀市、宇多津町、飯山町等では工場の立地に伴い、近年市街地への人口集中が急速に進み、都市用水の需要の急増が予想されています。現況の水源は土器川等の表流水と地下水によっていますが、取水可能量は限度に達しており、瀬戸大橋、四国横断自動車道の開通に伴う産業構造の変化、それに伴うさらなる都市部への人口の急増が予想されることから新たな水源の確保が強く望まれています。このように土器川流域においては治水はもとより利水においても早急な対策が望まれており、前の川ダムには大きな期待が寄せられています。

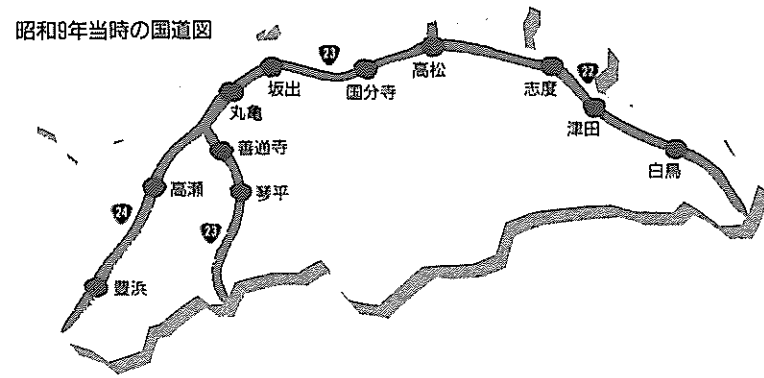


- ダムの名称/前の川ダム ●所在地/香川県仲多度郡琴南町川東字前ノ川
- 目的/洪水を防禦する 正常流量を補給する 都市用水を確保する
- ダムの形式/重力式コンクリートダム ●ダムの高さ/約60m ●ダムの貯水容量/約5,000千 $\text{m}^3$

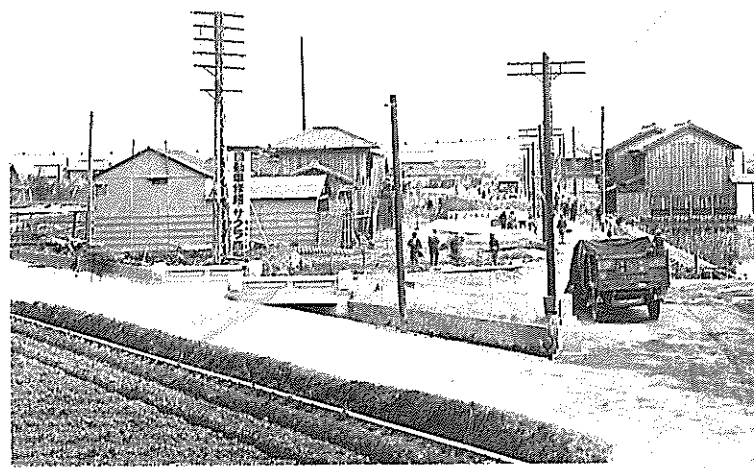
昭和9年  
1934  
1938  
昭和13年

高松・屋島間、観光道路の建設に着手（昭和9年）

昭和9年当時の国道図

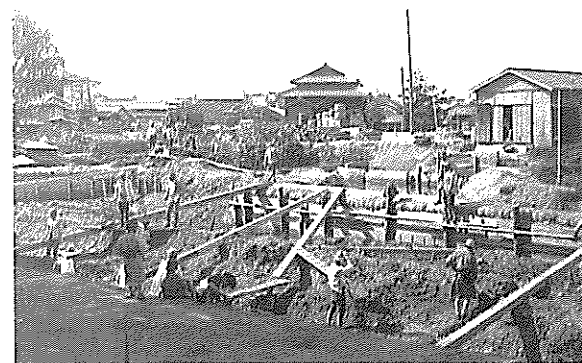


◆観光道路の建設に着手



国道22号高松・屋島間観光道路の工事起点高松市塩上町（現在の観光通2丁目）附近。（昭和9年）

◆観光橋（御坊川）の建設

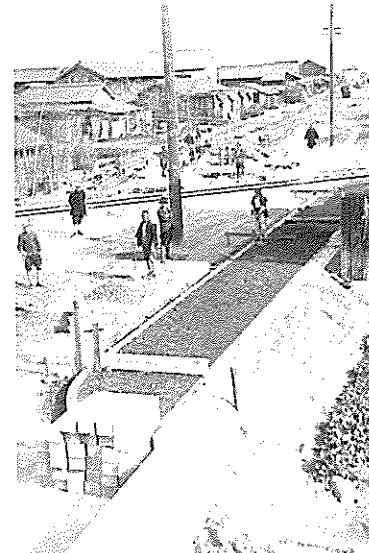


建設中の観光橋（昭和9年）

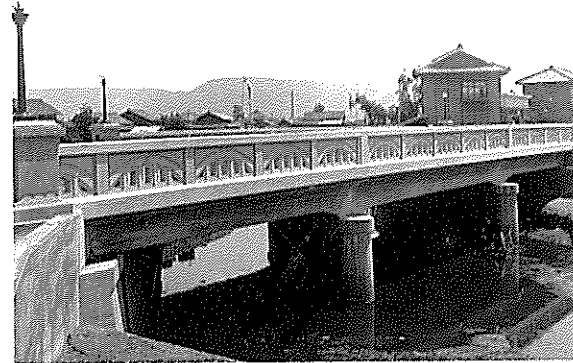
◆詰田川橋の建設



旧詰田川橋



長尾線踏切西側での改良工事。盛土材は春日川から貨物自動車、荷馬車、ガソリン機関車により運搬した。（昭和9年）

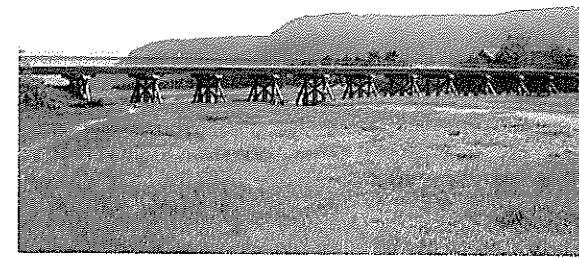


昭和10年3月完成。この橋の親柱には庵治産の花崗岩を使用。



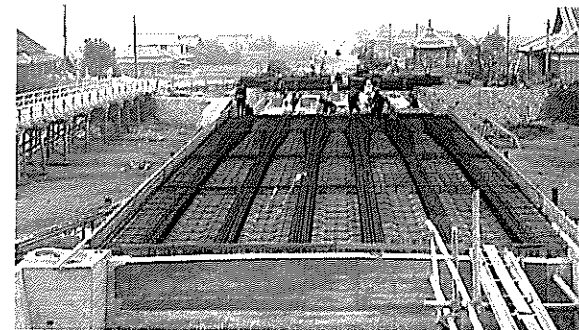
本橋は昭和11年3月に完成した。架橋にあたっては、人、馬、車等の足を確保するため仮橋を設けた。

◆春日川橋の建設

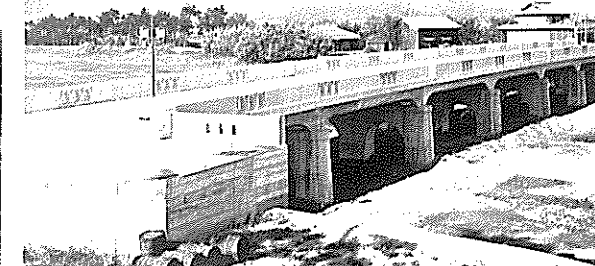


旧春日川橋

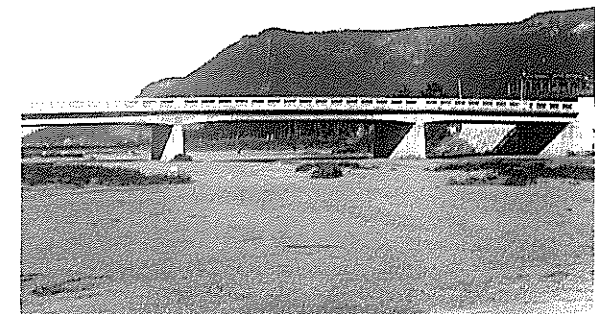
◆新川橋の建設



新川橋の上部工事、左手に旧橋が見える（昭和12年）

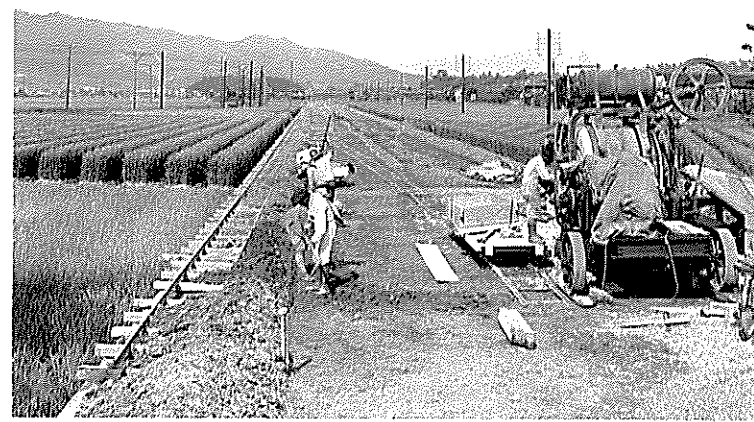


昭和12年3月に完成。基礎杭は木杭を使用し、高欄は芸術性の高いものとなっている。

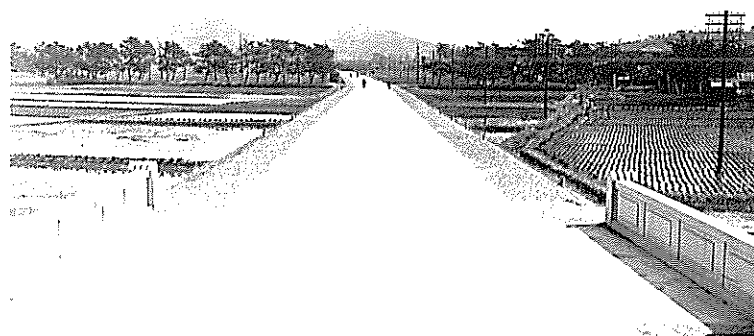


昭和13年3月に完成した新川橋

◆観光道路、完成



屋島参道より東方向の改良工事（昭和13年）



口銭橋より屋島参道方向を望む（昭和13年）

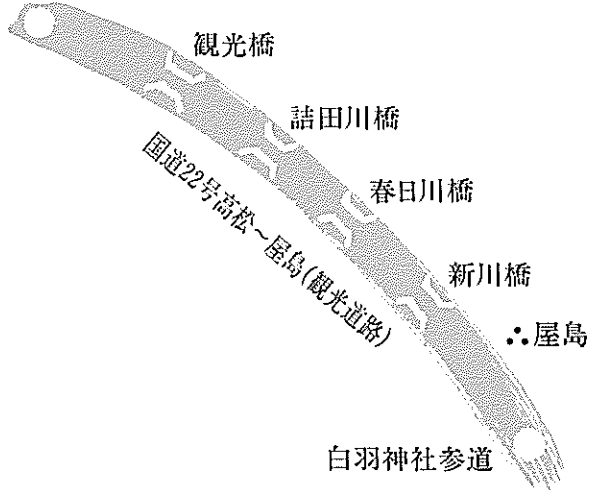
香川工事事務所60年のあゆみ

瀬戸のかおりを結ぶ  
フレッシュロード



「道路事業のあゆみ」の中で近代所長の方々の思い出た「フレッシュロード」を掲げました。  
「屋島が望めることから、通常の川の名前をつけた橋ではなく観光橋と名づけた」昭和10年

高松市塩上町



香川国道改良事務所、開設（昭和9年）

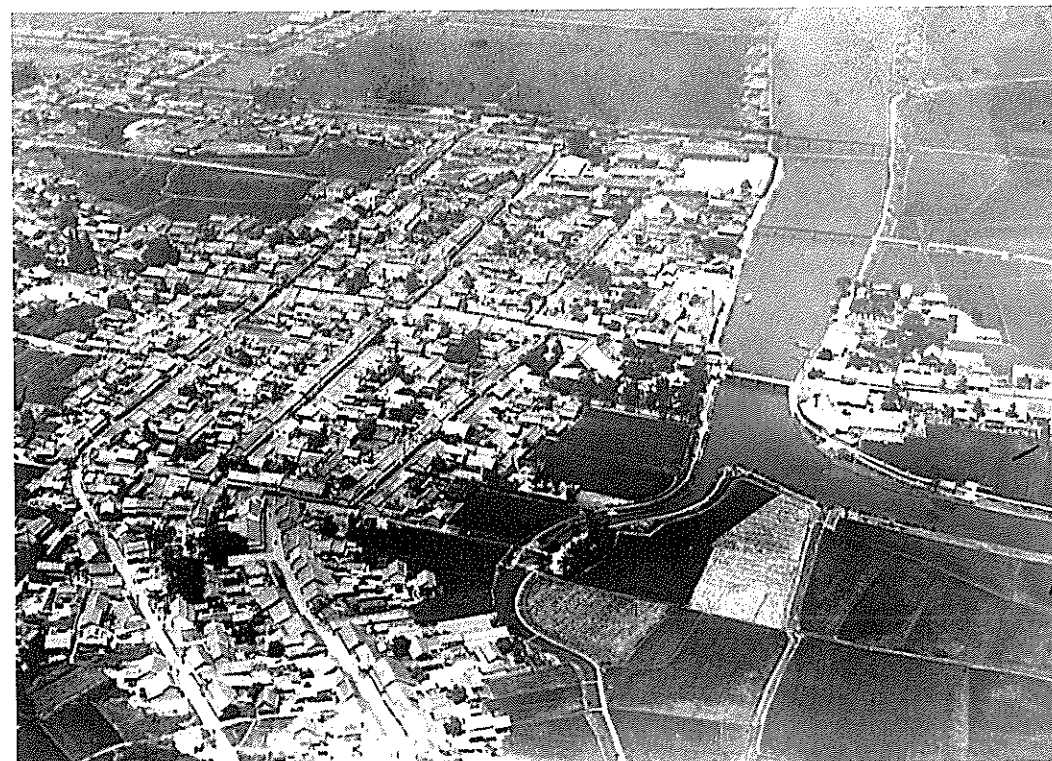
大正末期から昭和初期にかけての日本は、経済不況等により、労働争議、金融恐慌、国連脱退など大きく揺れ動いていた時代です。この様な中で政府は国策事業として国道の直轄事業を行うこととなり、高松にも内務省神戸土木出張所香川国道改良事務所を設置し、国道22号高松～屋島（観光道路）の整備に着手しました。

昭和14年  
1939  
▼  
1945  
昭和20年

国道23号、高松〜丸亀間の事業着手  
（昭和14年）

◆国道23号、宇多津町で事業実施。

国道23号府中・丸亀間計画路線



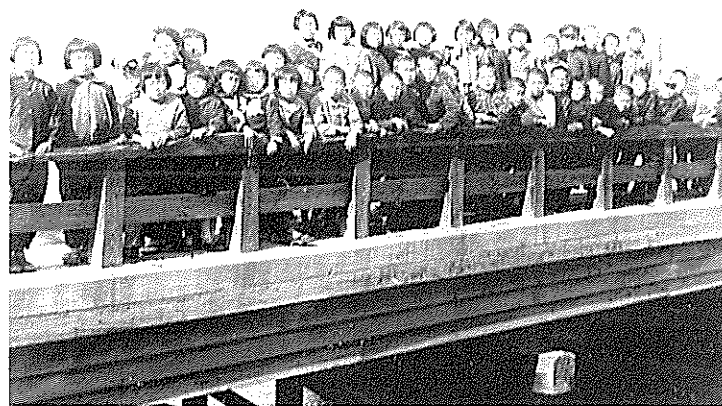
当時の宇多津町遠景



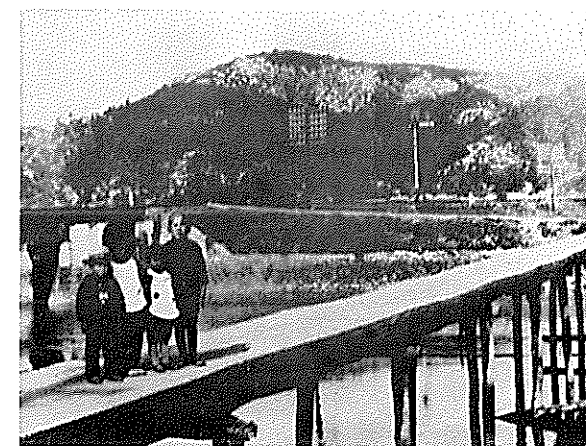
宇多津町内の拡幅現場（昭和15年）



宇多津町内23号旧国道（昭和59年撮影）



昭和18年8月に完成した大東川橋（昭和21年頃・提供／宇多津小学校）



大東川橋建設前の木橋（昭和12年頃）

香川工事事務所60年のあゆみ

瀬戸のかおりを結ぶ  
フレッシュロード



「当時の国道事務所は、10名余。  
課、係などの制度もなかった」昭和14年

昭和21年  
1946  
▼  
1952  
昭和27年

国道23号改良事業を再開  
〈昭和21年〉

◆戦争により休止状態だった  
23号改良事業の再開

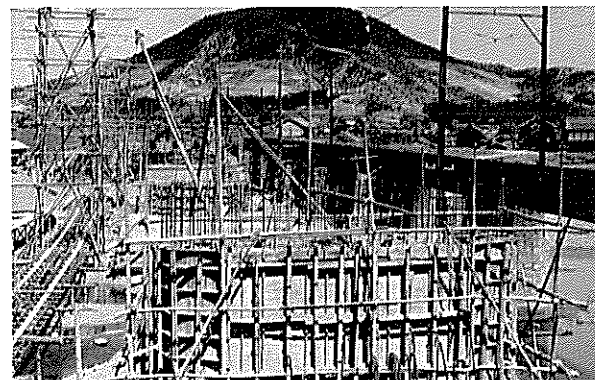


予讃線より23号改良箇所を望む(土器村内)〈昭和21年〉

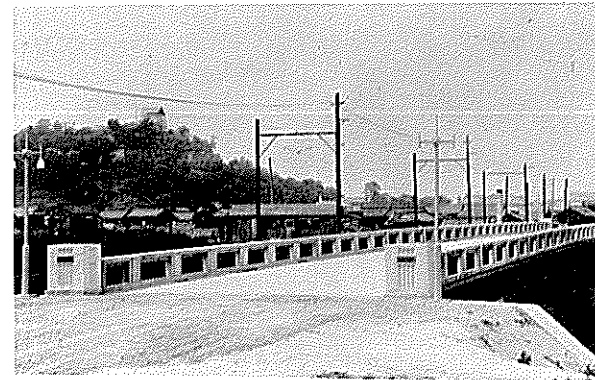


丸亀市都市計画街路土居土器内間線のうち土器川左岸側を23号として改良工事を行った。  
〈昭和22年〉

◆蓬萊橋の建設



蓬萊橋の上部工(スチールガーダー型式)は  
運輸省四国地方建設部に委託し施工した。



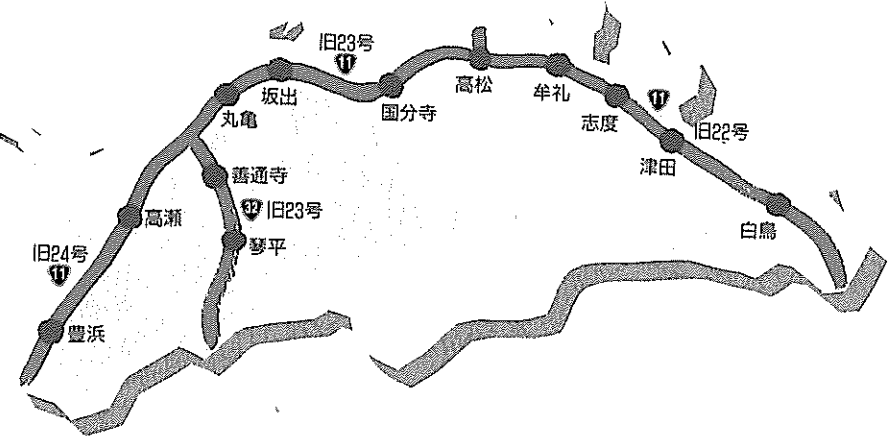
昭和21年10月着手、24年7月完成

「丸亀城の別称蓬萊城にちなみ  
名づけられたのが、蓬萊橋」昭和24年



クスノ木の植樹直後の高松中央通り〈昭和20年代中頃〉(提供 岡本二三雄氏)

昭和27年当時の国道図



23号香西新橋が昭和27年7月完成(昭和59年撮影)

香川工事事務所60年のあゆみ

瀬戸のかわりを結ぶ  
フレッシュロード



22・23・24号が一級国道11・32号に  
〈昭和27年〉

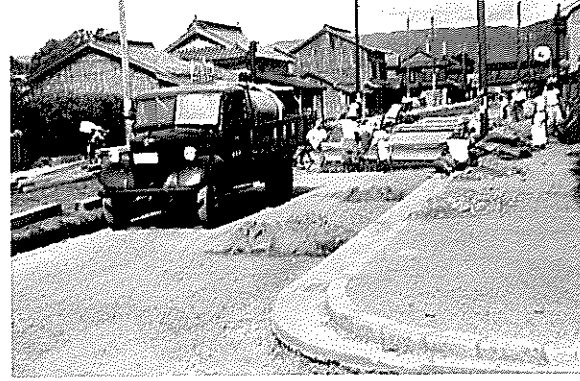
昭和28年  
1953  
▼  
1957  
昭和32年

坂出市内の国道11号舗装、完成へ  
（昭和30年）

◆坂出市内のコンクリート舗装工事



当時のコンクリート舗装工事(昭和29年)



舗装工事も本格化(昭和29年)



完成した坂出市田尾坂のコンクリート舗装(昭和30年)



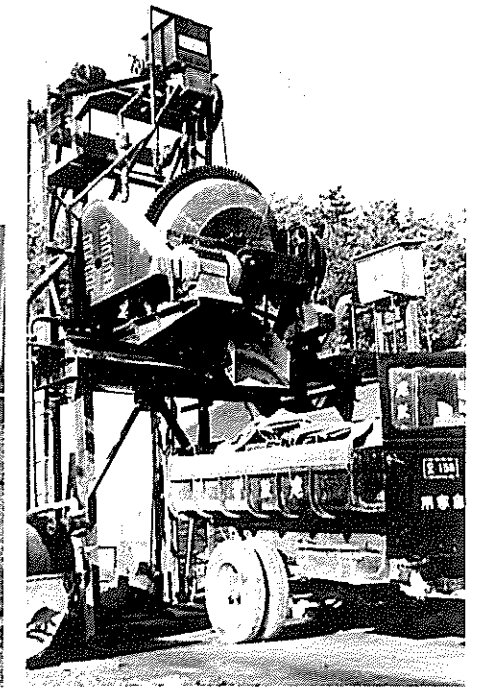
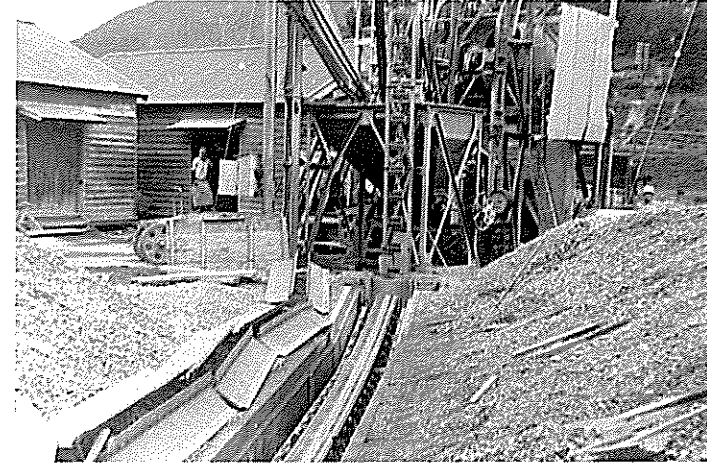
完成した坂出市南海岸通のコンクリート舗装(昭和30年)

香川工事事務所60年のあゆみ

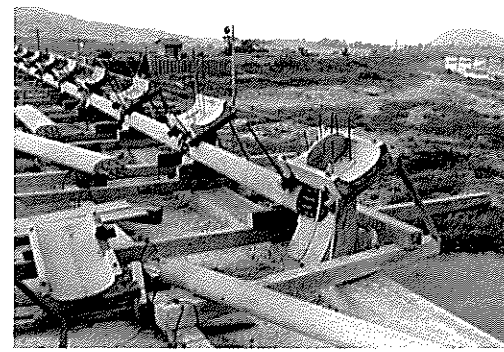
瀬戸のかわりを結ぶ  
フレッシュロード



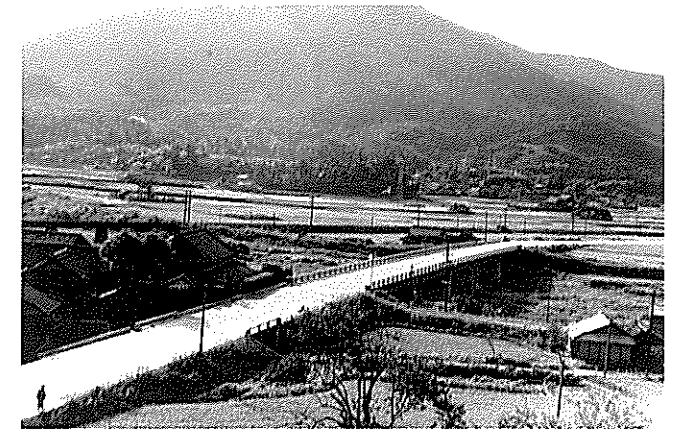
◆坂出市前谷に直営コンクリートプラント設置(昭和31年)



◆綾川大橋の建設



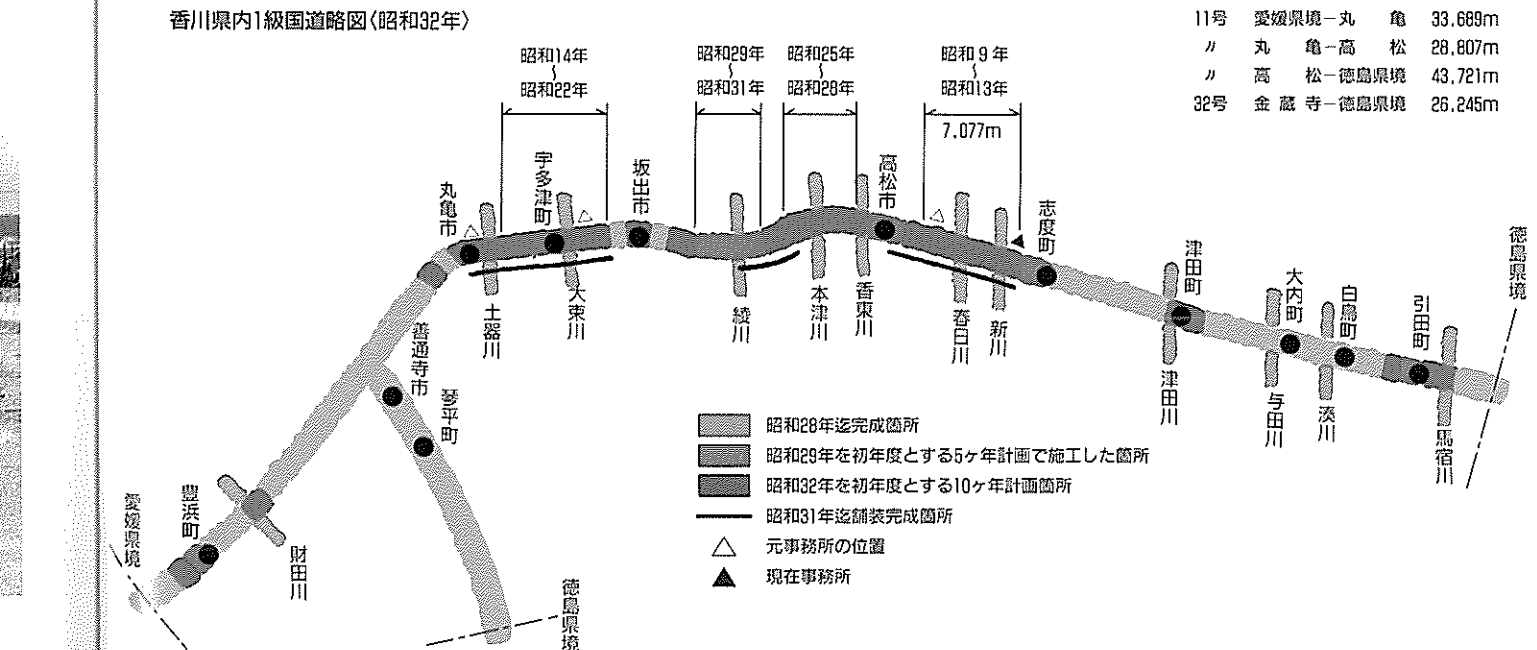
建設風景(昭和31年)



昭和31年10月完成

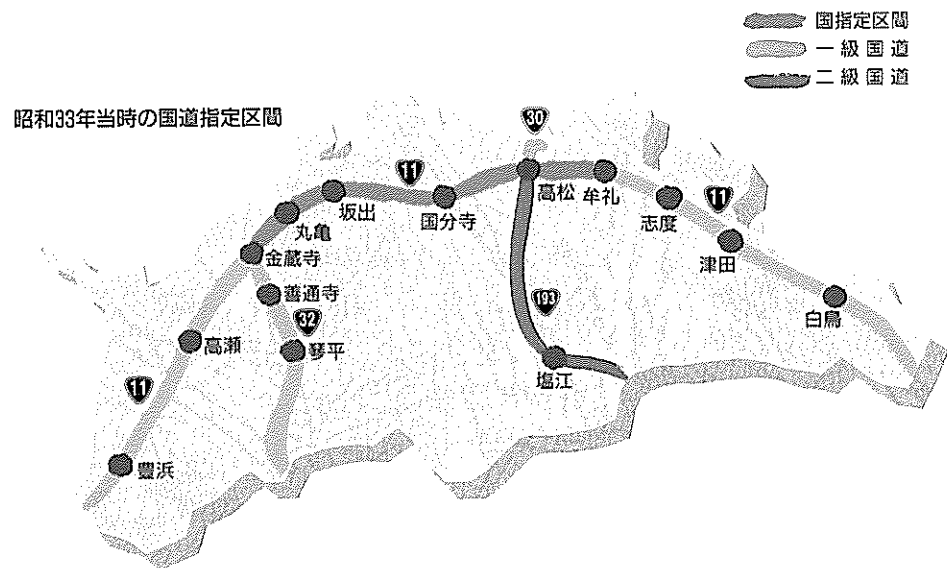
香川県内1級国道路図(昭和32年)

11号	愛媛県境-丸亀	33,689m
〃	丸亀-高松	28,807m
〃	高松-徳島県境	43,721m
32号	金蔵寺-徳島県境	26,245m



昭和33年  
1958  
▼  
1962  
昭和37年

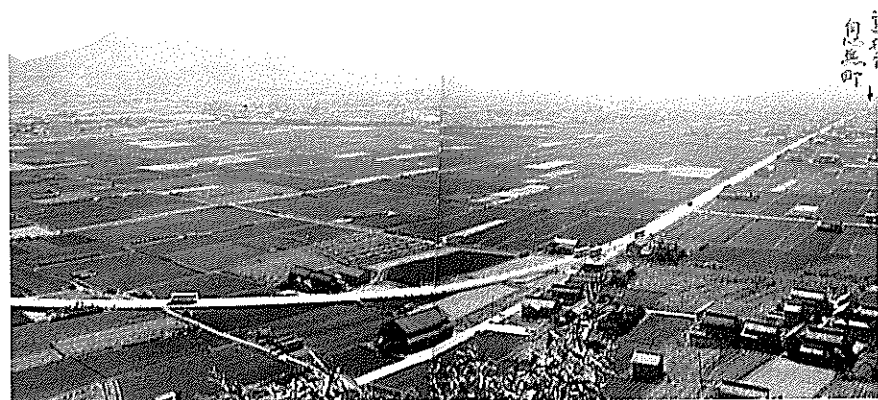
国道11号牟礼～普通寺間を直轄管理（昭和33年）



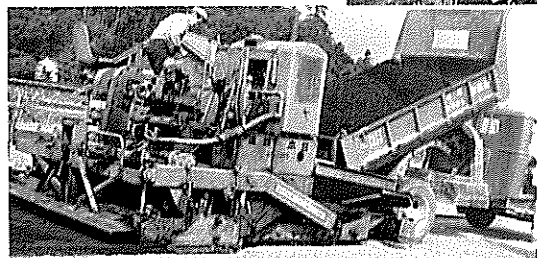
◆高松市郷東・香西・鬼無地区の舗装工事



中心釘打込

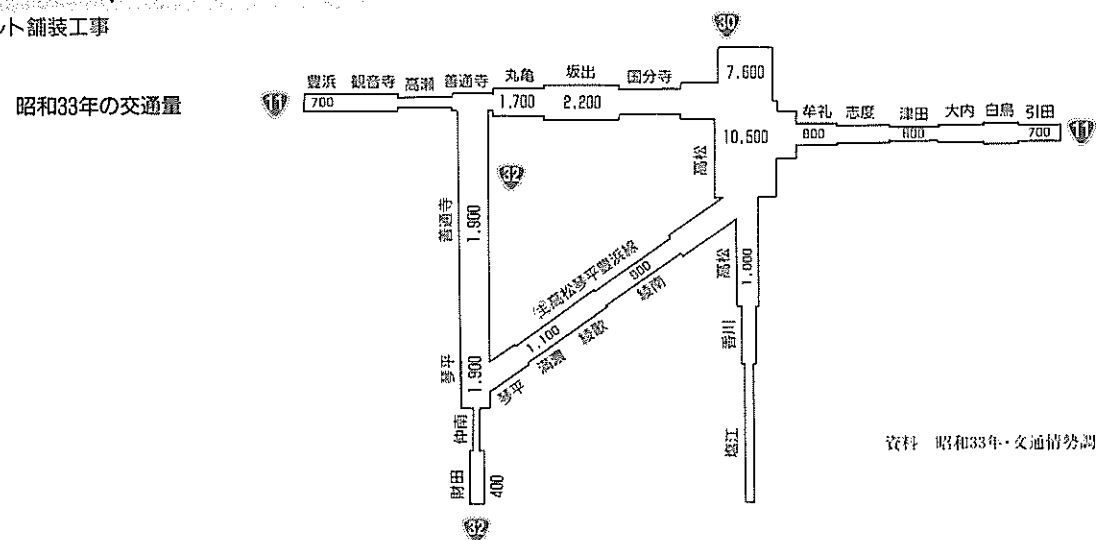


完成後の高松市香西南町より鬼無方向を望む（昭和33年）



アスファルト舗装工事

「四国ではじめてのアスファルト舗装を実施したのが昭和33年。高松市郷東町～鬼無間」



香川工事事務所60年のあゆみ

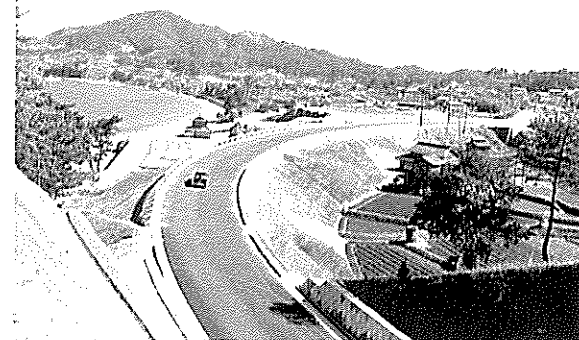
瀬戸のかおりを結ぶ  
フレッシュロード



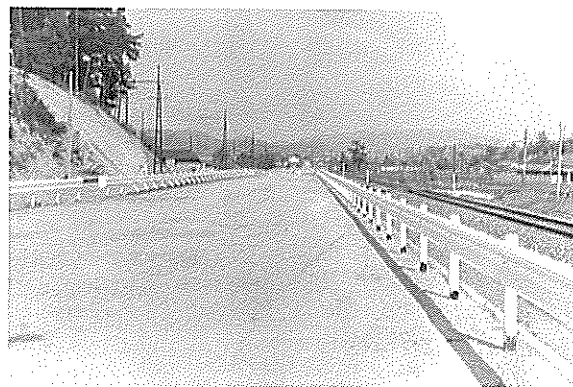
東讃地域の整備促進



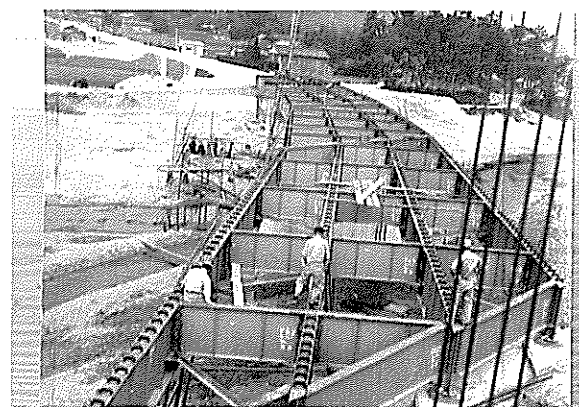
津田町内のアスファルト舗装工事（ソイルセメント路盤の施工）（昭和34年）



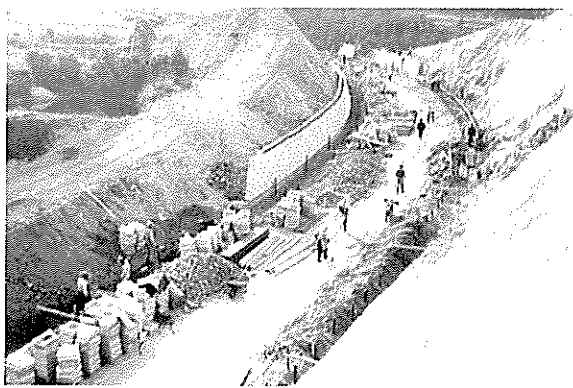
11号大内町内の舗装工事、大門跨線橋（高德線）を望む（昭和37年）



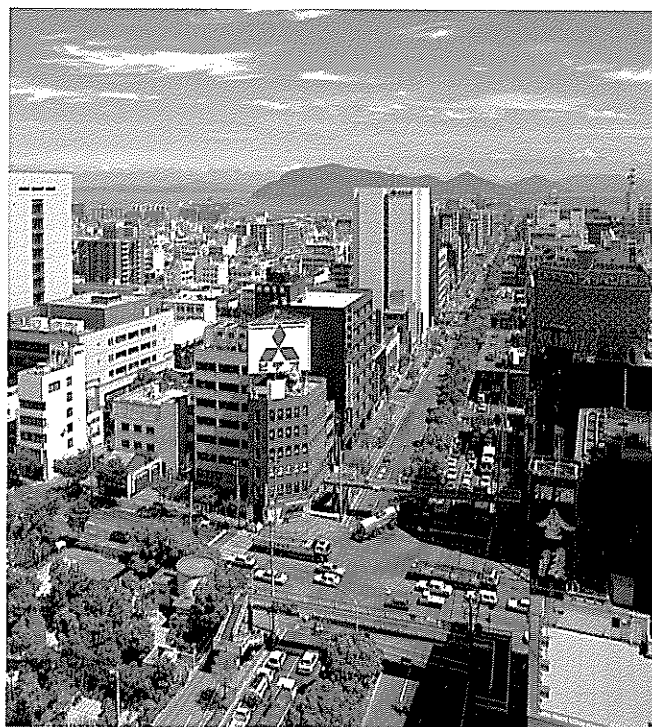
牟礼村内の改良工事完成（昭和35年）



鴨部川橋の建設工事（昭和37年）



志度町天野峠の改良工事（昭和36年）



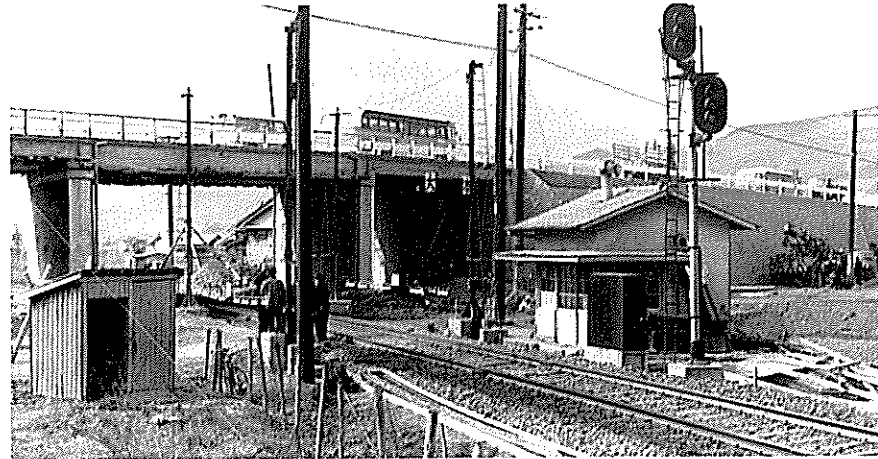
昭和37年5月国道30号が指定区間となる（昭和62年撮影）



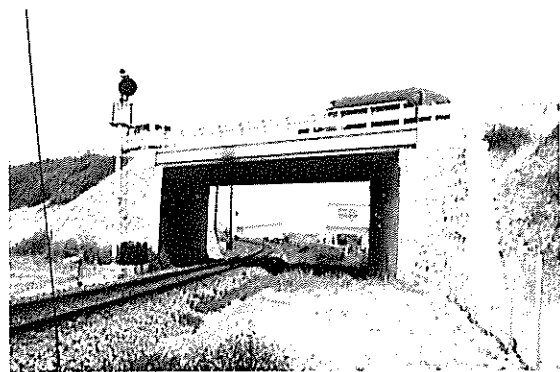
完成した11号湊川橋（大川郡白鳥町）（昭和36年2月19日）

昭和38年  
1963  
▼  
1967  
昭和42年

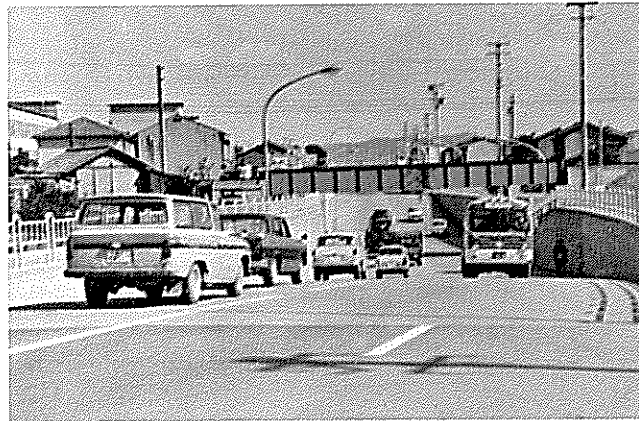
国鉄との立体交差、次々と完成



昭和38年3月郷東跨線橋(国鉄予讃線)が完成(提供/四国新聞社)



11号金蔵寺跨線橋(国鉄土讃線)が完成(昭和38年)



昭和39年9月11号と国鉄高德線との立体交差完成(高松市宮脇町)

「11号高松バイパスの調査が昭和39年、春にはじまる」



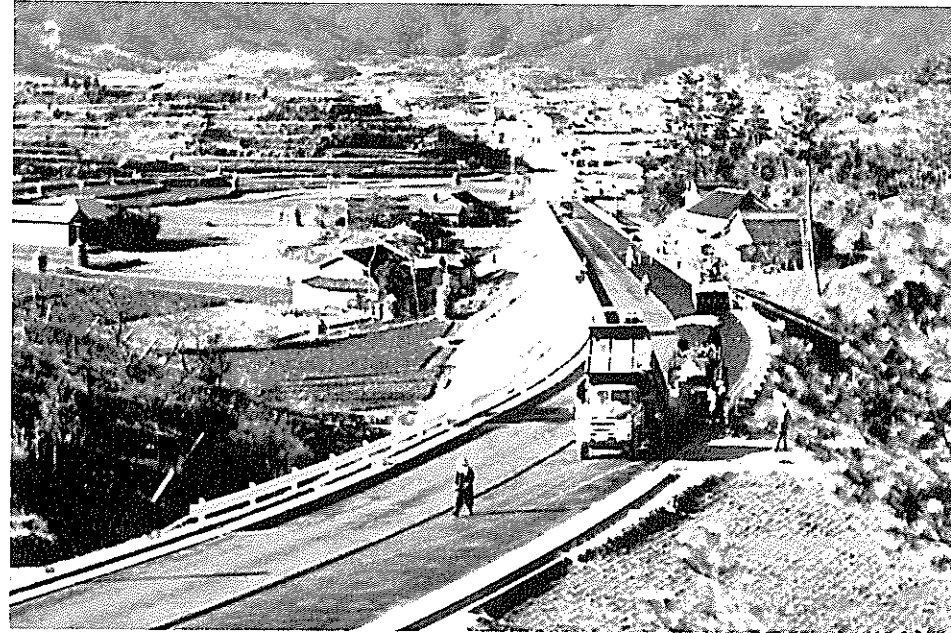
昭和39年宇多津跨線橋の建設に着手



昭和40年2月1日宇多津跨線橋が完成



大坂峠ルートが海岸沿いのルートに  
(昭和38年)

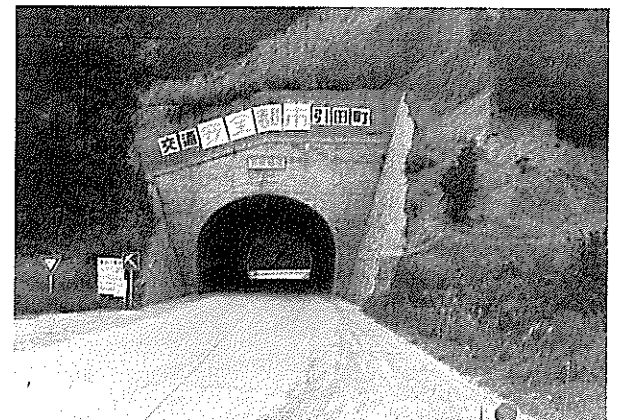


11号天野峠舗装工事(志度町)(昭和38年)

◆11号徳島県境、大坂峠ルートが海岸沿いのルートに

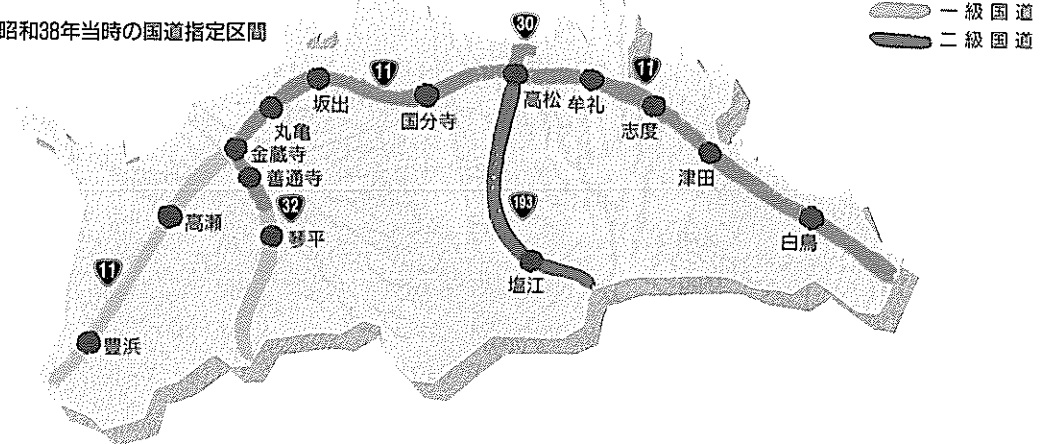


大坂峠(昭和38年)(提供/吉市寛氏)



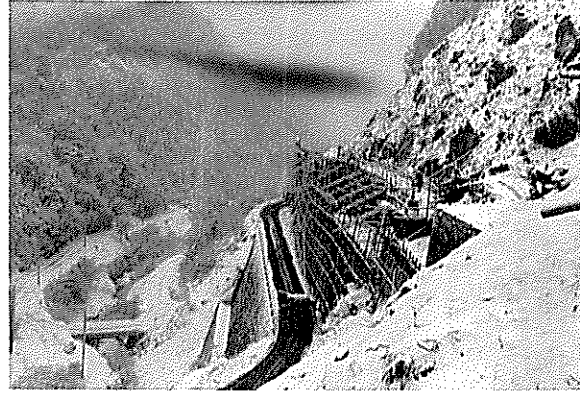
海岸沿いルートの引田トンネル(香川県施行)(昭和38年)

昭和38年当時の国道指定区間

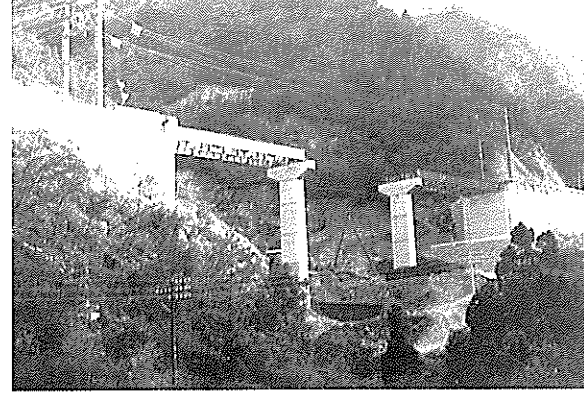


昭和38年  
1963  
▼  
1967  
昭和42年

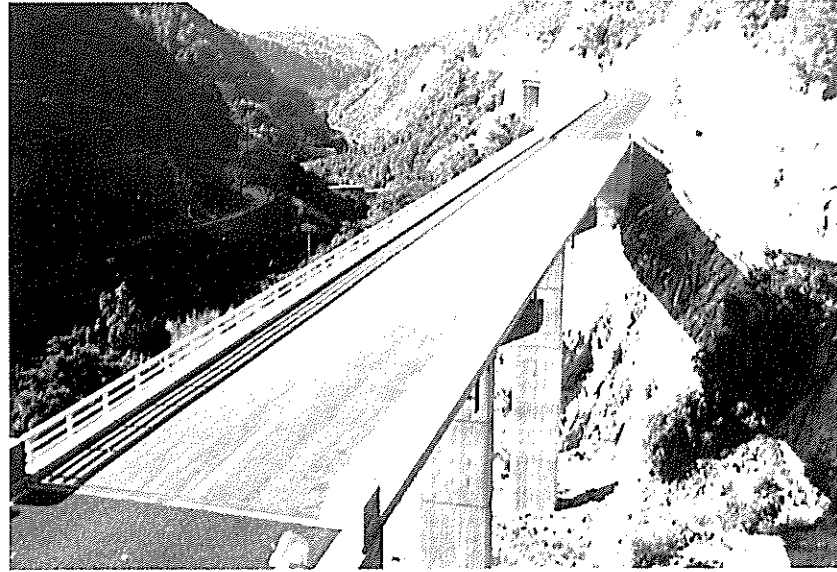
猪ノ鼻峠の改良工事、完成  
（昭和40年）



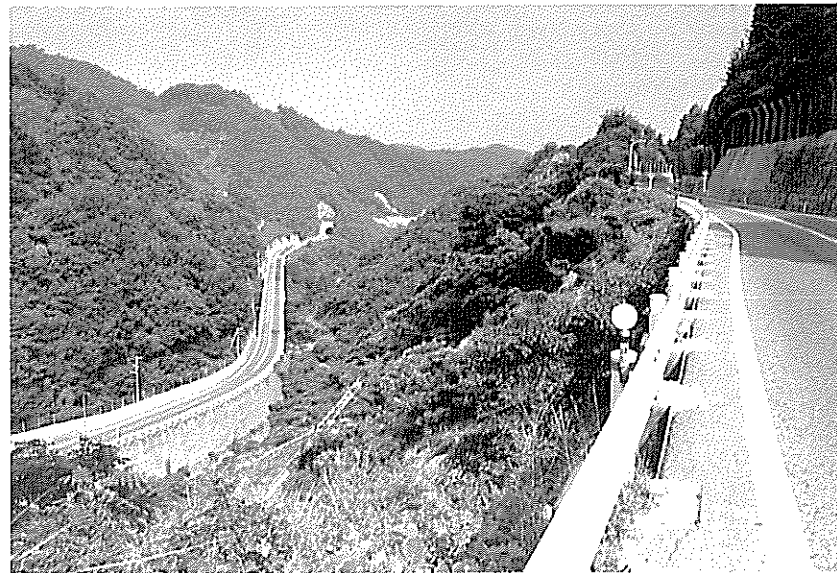
猪ノ鼻峠改良法面工事（昭和38年）



猪ノ鼻峠、新牛岩橋架設工事（昭和38年）



猪ノ鼻峠、新牛岩橋の橋面舗装完成（昭和40年9月10日）



猪ノ鼻峠舗装が完成（昭和41年9月）

猪ノ鼻峠（いのしなとうげ）

三豊郡財田町と徳島県池田町との境にある峠が猪ノ鼻峠。標高550m。金毘羅五街道の1つ、阿波街道が通じていました。また、「財田町誌」によると、四国新道開通以前は、阿波の煙草が峠を越えてきたので、猪ノ鼻峠をたばこ峠とも呼ばれていたと伝えられています。



◆管内初の横断歩道橋が高松市宮脇町に完成（昭和41年）

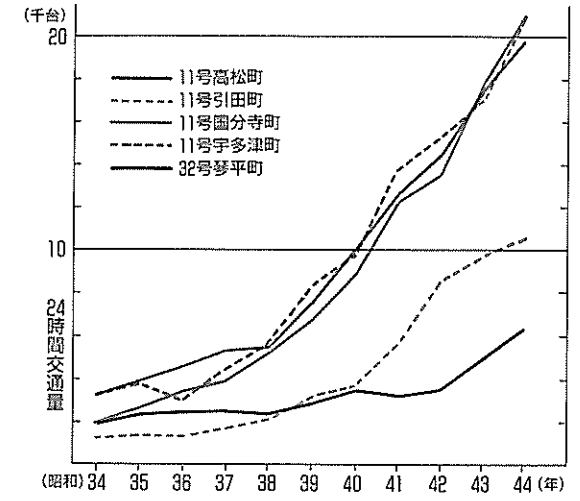


高松市宮脇町に横断歩道橋が完成（昭和41年3月26日）  
（提供／四国新聞社）

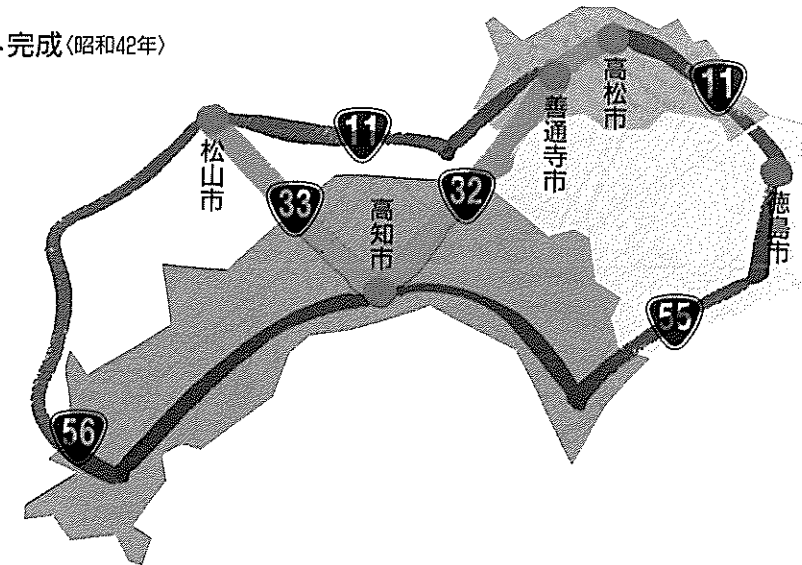


高松市築地小学校前に横断歩道橋が完成（昭和42年）  
（提供／四国新聞社）

交通量の経年変化



◆四国開発へ動脈・Vルート完成（昭和42年）

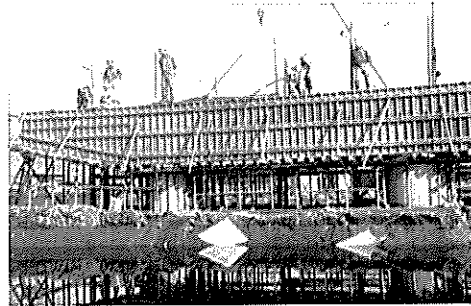


横断歩道橋の設置  
（昭和41年）



昭和43年  
1968  
▼  
1972  
昭和47年

国道11号高松北バイパス、開通  
（昭和44年）



新春日川橋、橋脚工事(昭和44年)

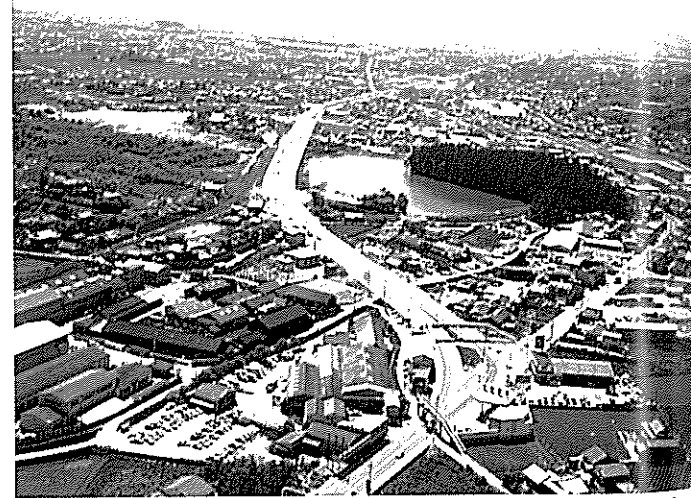
◆高松北バイパス、供用開始(昭和44年12月25日)



昭和44年12月開通に向け、舗装工事も急ピッチで進む



高松北バイパス一期区間(高松市高松町～亀井町4.2km)を牟礼町から望む(昭和44年12月)



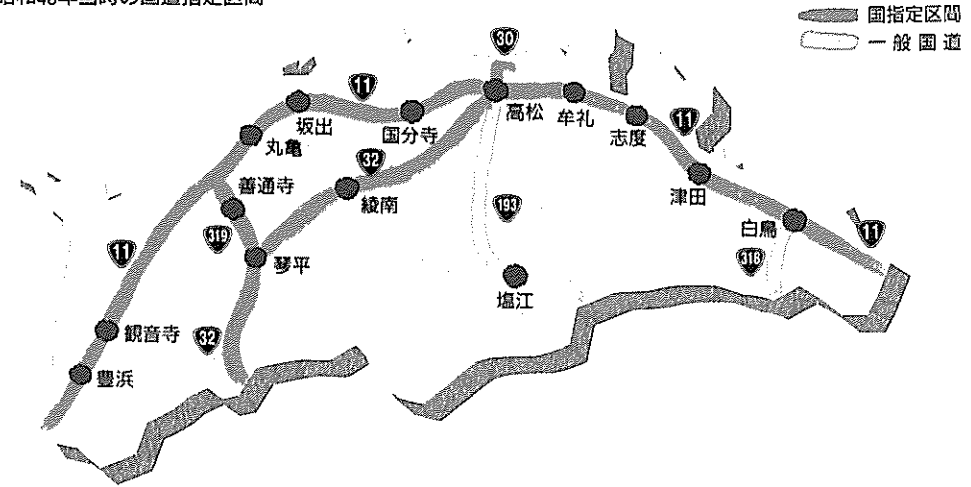
昭和46年12月25日高松北バイパス二期区間(木田郡牟礼町～高松市高松町1.2km)供用開始。起点より高松市街方向を望む

「管内初の4車線バイパスとして開通の高松北バイパス」昭和44年

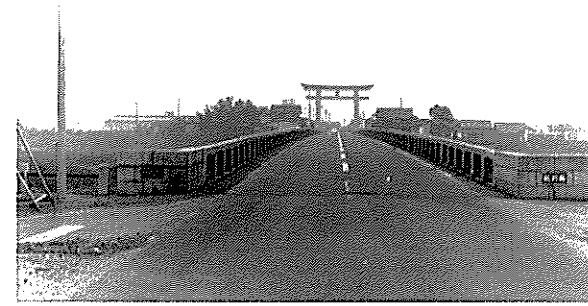
瀬戸のかわりを結ぶ  
フレッシュロード



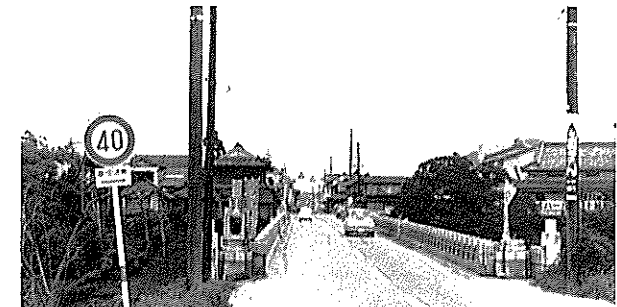
昭和45年当時の国道指定区間



◆国道32号に昇格当時の道路状況



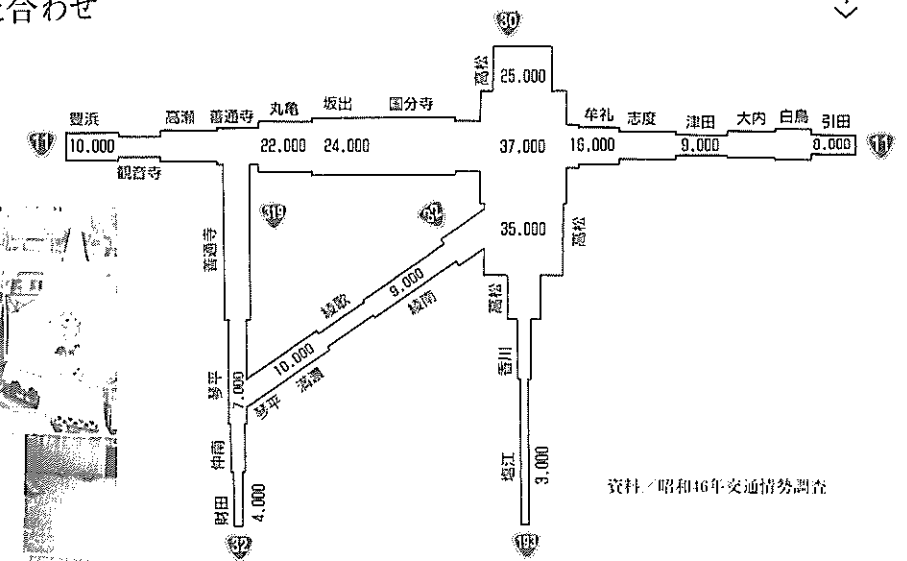
満濃町祓川橋附近(昭和45年)



綾南町滝宮橋附近(昭和45年)

「昭和47年に調査課を設置。組織は庶務・工務・道路管理・機械・用地と合わせ6課3出張所となる」

昭和46年の交通量



資料：昭和46年交通情勢調査

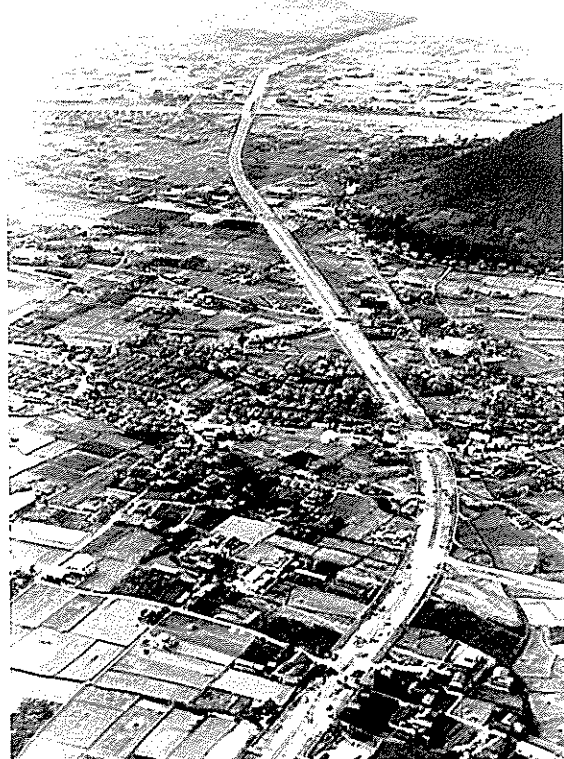


高松市中央通り、番町横断歩道橋完成(昭和46年当時)(提供：四国新聞社)

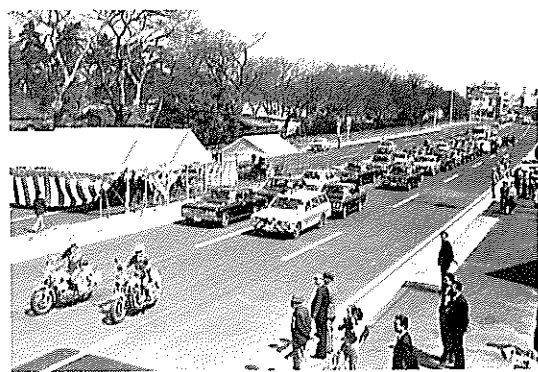
昭和48年  
1973  
▼  
1977  
昭和52年

国道11号高松南バイパス、開通  
（昭和50年）

◆11号高松南バイパス、供用開始



昭和48年4月1日の開通（高松市勅使町～御底町間）を目指し工事最盛期を迎えた高松南バイパス。高松上空より国分寺方向を望む（提供／四国新聞社）



昭和50年4月9日開通式を行う（栗林公園前）



高松南バイパス全線開通（高松市栗林町～坂出市府中町間）。栗林町より南を望む（昭和50年4月9日）



中新町に地下横断歩道が完成  
（昭和49年）

「交通安全の一環として、直轄国道初の  
中新町の地下横断歩道が建設される」昭和49年



高松市中新町地下横断歩道（昭和49年12月）（平成6年撮影）



中新町地下横断歩道開通式（昭和49年12月）

◆植樹帯さらに美しく



樹間を彩るツツジ・高松中央通り（昭和49年）



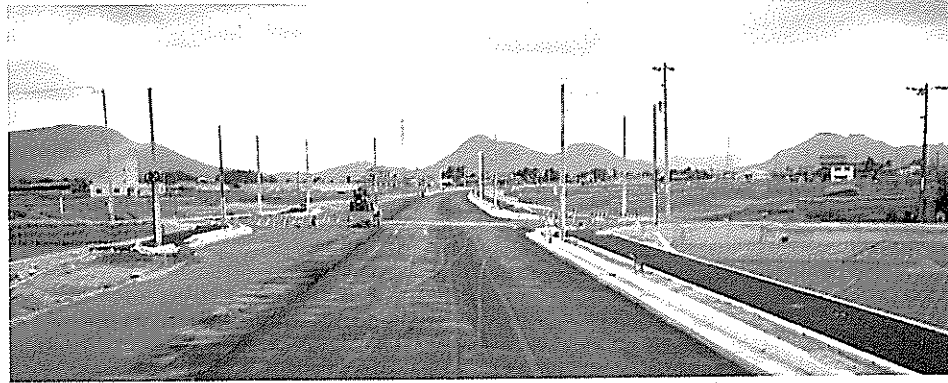
高松南バイパスで歩道植樹をはじめ（昭和50年）（昭和59年撮影）

昭和53年  
1978  
▼  
1985  
昭和60年

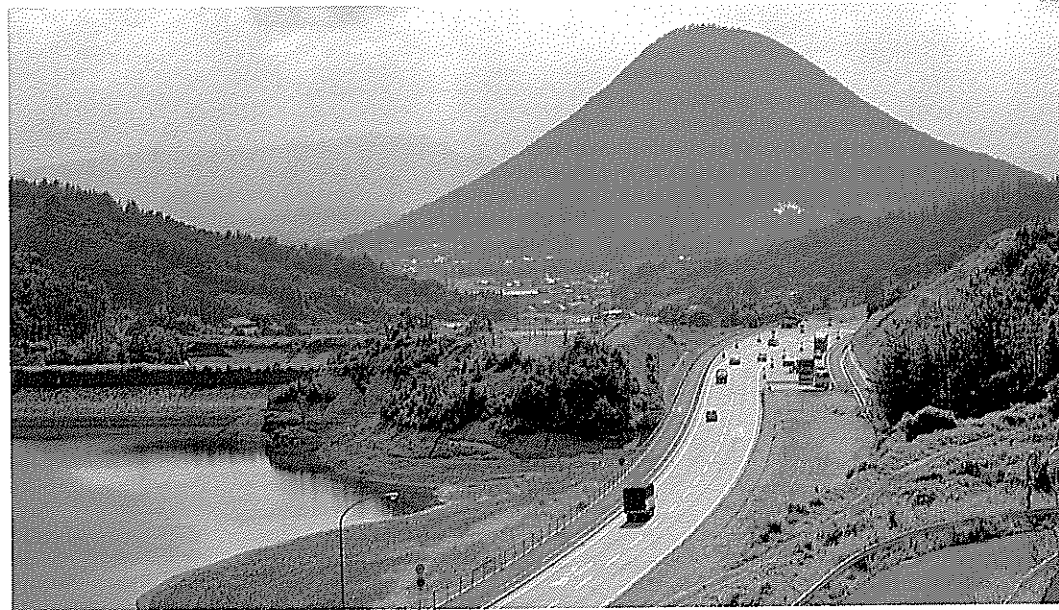
進むバイパス事業

◆11号坂出丸亀バイパス、供用開始

昭和55年3月25日 宇多津町～丸亀市飯野町間、延長2.1km  
昭和57年3月5日 宇多津町津ノ郷～坂出市西庄間、延長5.9km  
昭和58年2月17日 坂出市西庄～同市加茂町間、延長1.2km



昭和55年3月の部分開通を目指し舗装工事の進む坂出丸亀バイパス(昭和55年)



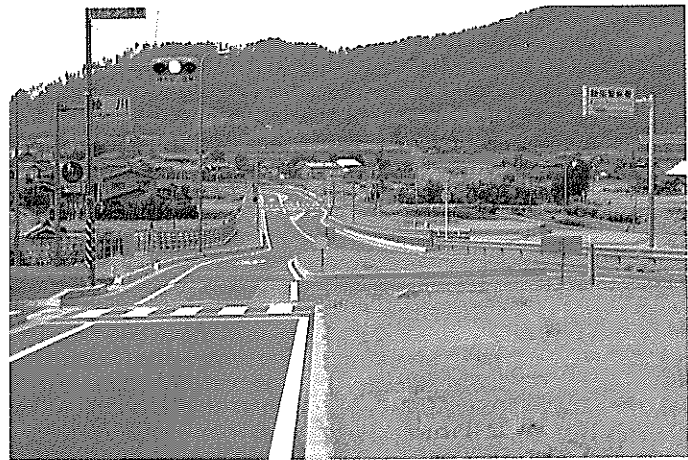
11号坂出丸亀バイパス、開通。坂出市北峰附近(昭和57年3月5日)

◆32号綾南バイパス、供用開始

昭和57年3月6日 綾南町滝宮地区、延長1.3km  
昭和57年12月15日 綾南町陶～同町滝宮間、延長3.2km

◆32号円座バイパス、供用開始

昭和59年12月18日 高松市円座町～同市西山崎町、延長2.1km



32号綾南バイパス、新滝宮橋建設工事(昭和56年)

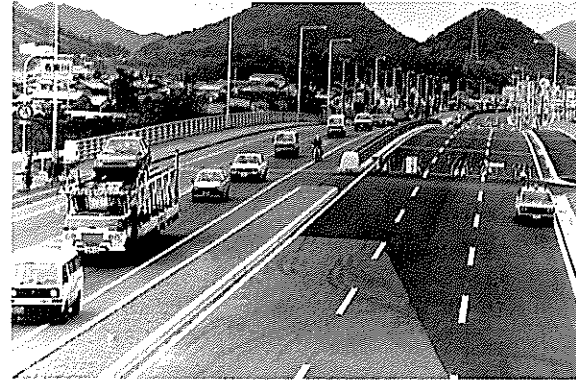


建設中の32号円座バイパス(高松市西山崎町)(昭和59年)

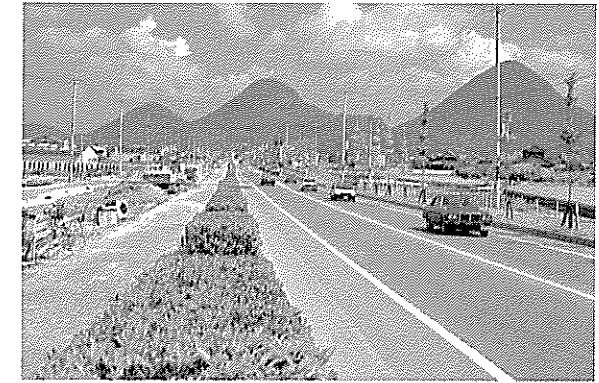
「昭和63年の瀬戸大橋開通に向けて、  
道路事業の最盛期を迎える」



◆11号高松南バイパス、全線完成供用(昭和59年12月)



昭和57年12月11日高松市物使町～同市檀紙町間、延長2.0km



拡幅工事の進む11号南バイパス(昭和59年)

◆坂出丸亀バイパス、高松南バイパスと接続



昭和59年2月25日坂出丸亀バイパスの開通に先立ち、バイパスで道路まつりを開催。地元の幼稚園児、小中学生を招き、お絵かき大会、記念植樹、マラソン大会等の行事を行った。



11号坂出丸亀バイパス開通式。この開通により高松～丸亀間がバイパスでつながった(昭和59年3月6日)(提供/四国新聞社)

坂出丸亀バイパス、高松南バイパスと接続  
〈昭和59年〉

昭和61年  
1986  
▼  
1992  
平成4年

国道バイパス、供用ラッシュ



319号善通寺バイパス、開通(善通寺市原田町)(昭和62年12月)  
(平成6年撮影)

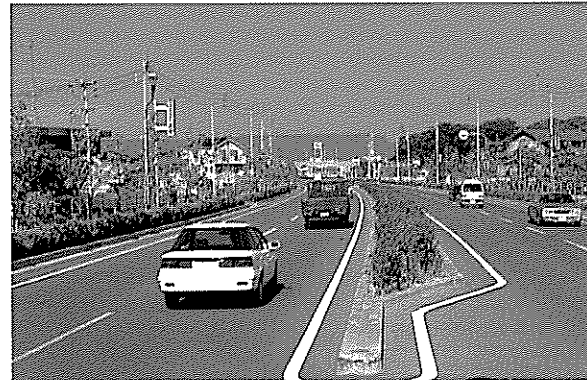
- ◆319号善通寺バイパス、供用開始
- 昭和62年12月 善通寺市原田町土居～南五条間  
延長1.7km
- 平成元年12月 善通寺市原田町南五条～西五条間  
延長0.4km
- 平成4年3月 善通寺市原田町南五条～与北町京免  
延長0.5km



319号善通寺バイパス、開通。善通寺市与北町より望む  
(平成4年3月)

◆32号円座バイパス、供用

- 昭和63年4月 高松市勅使町～同市円座町間、延長1.6km
- 平成2年3月 高松市田村町～同市円座町間、延長3.2km

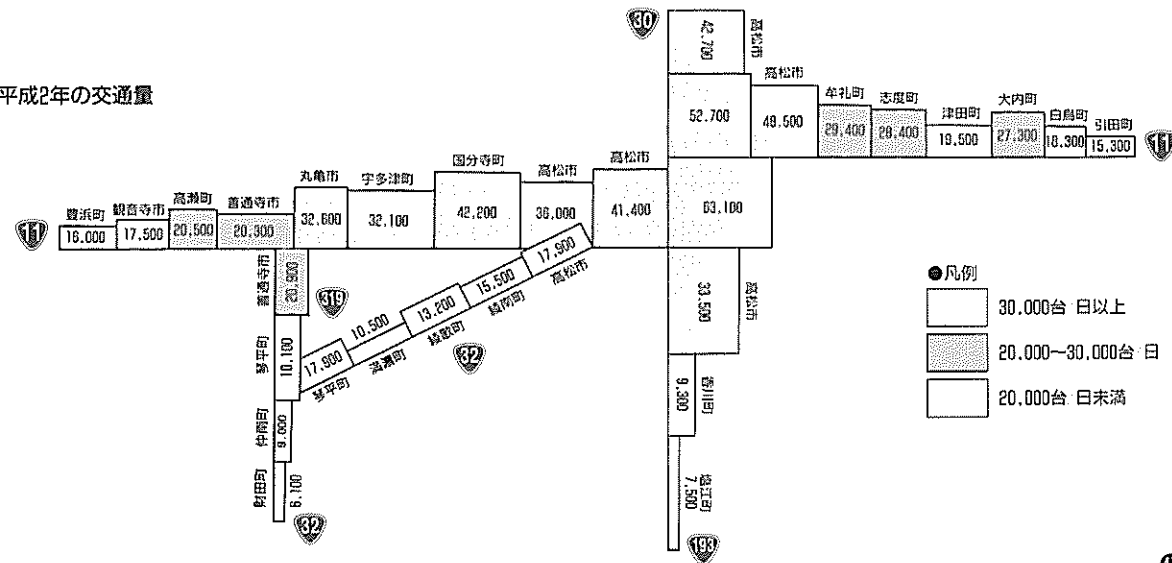


32号円座バイパス、開通(高松市円座町)(昭和63年4月)  
(平成6年撮影)



32号円座バイパス全線供用(平成2年3月)

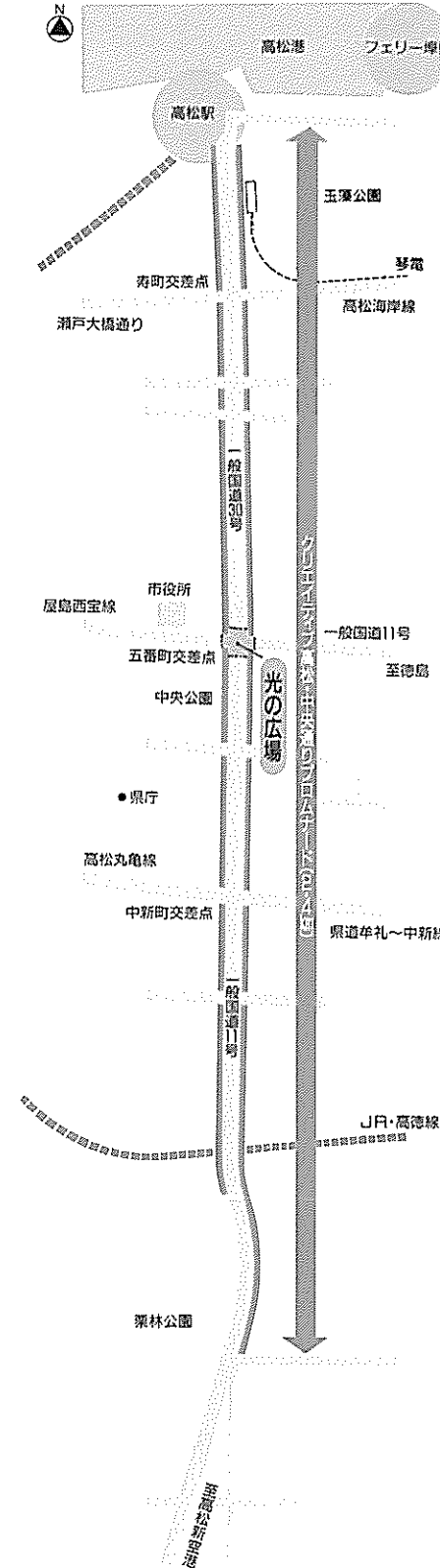
平成2年の交通量



「電柱をとりさり、電力・電話・各種ケーブルを歩道下のボックスに埋設したキャブ・システムで、快適な道路空間が生まれる」

◆中央通りの経緯

- 昭和60年10月/キャブシステムのモデル都市に高松市が選定される。
- 昭和61年8月/中央通りが「日本の道百選」に選定される。
- 昭和61年12月/キャブシステム工事に着手。
- 昭和63年9月/番町地下道工事に着手。
- 平成2年2月/番町地下道及びキャブシステムの完成。



すっきり、ひろびろと整備されたカラー歩道(天神前より北を望む)



中央公園南側より北を望む



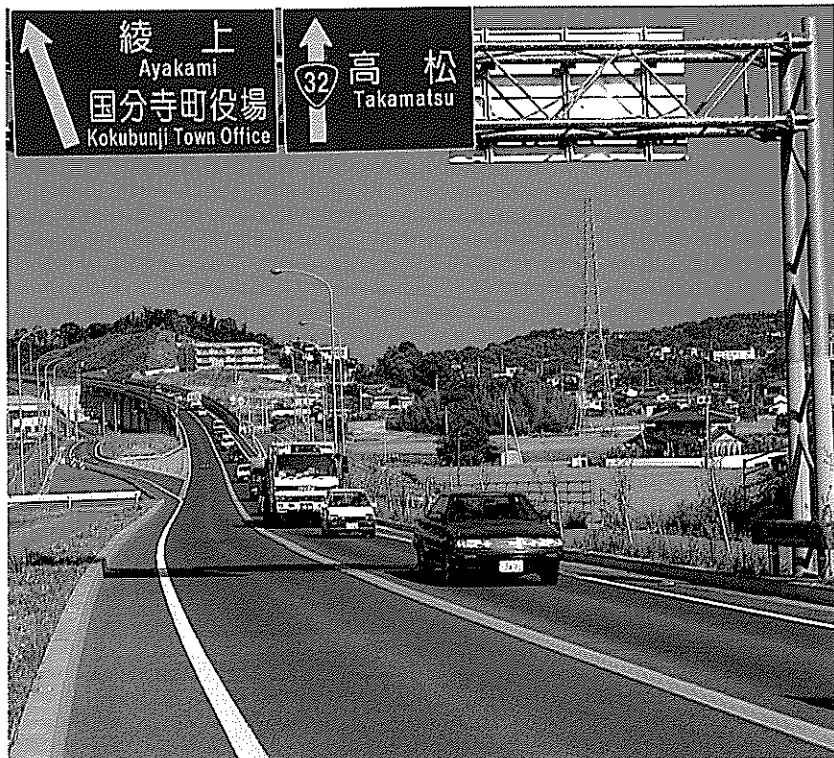
南側より光の広場全景

クリエイティブ高松・中央通りプロムナード完成  
〈平成2年〉

平成4年  
1992  
▼  
1994  
平成6年

国道11号高松東道路、開通  
〔平成5年〕

◆32号綾南バイパス3工区  
全線暫定供用



平成4年9月28日綾南バイパス開通。高松市西山崎町～綾南町陶岡、延長4.6km

◆11号高松東道路、東四国国体(平成5年開催)に合わせ、暫定供用



平成5年9月3日高松市上天神～県道高松長尾大内線間、延長5.6km。6車線の内暫定で2車線供用



「高松東道路の11号バイパスが  
高規格道路のネットワークに」



建設中の11号高松東道路(志度町鞆部付近)



11号高松東道路開通式(平成5年9月3日)

◆国道11号、瓦町キャブ事業

「番町交差点と瓦町一丁目交差点をむすぶ国道でキャブ事業がはじまる。  
期待される快適な都市空間」



キャブ施工後の番町交差点から瓦町方向のイメージ図

国道11号、瓦町キャブ事業着手  
〔平成5年〕